「上肢整形外科手術における単回投与腕神経叢ブロック後の rebound pain に関する検討」のお知らせ

上肢整形外科手術時の全身麻酔に腕神経叢ブロックを併用することで良好な鎮痛が得られます。しかし、腕神経叢ブロックをはじめとした神経ブロックを単回投与で行った場合に、局所麻酔薬の効果消失とともに急激に痛みが増強することがあり、rebound pain として知られています。rebound pain が起こる仕組みや原因については未だ十分には解明されていません。rebound pain を発症しやすい術式や因子を検討することは、rebound pain の軽減につながる可能性があります。そこで、rebound pain と周術期因子との関連を検討する研究を計画しました。

＜研究対象＞
2017 年 4 月 1 日から 2021 年8月 31 日までに当院で麻酔科管理のもとに行われた単回投与腕神経叢ブロック併用全身麻酔下に上肢整形外科手術を受けた患者さんを対象とします。

＜研究期間＞　2024 年 3 月 31 日までを予定しています。

＜研究内容＞
年齢、性別、身長、体重、既往歴、病名、術式、常用薬、手術時間、神経ブロック法、神経ブロックに用いた薬剤、術後疼痛状況、術後鎮痛薬使用状況などの情報を診療録などから収集します。

研究で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。また特定の個人を識別することができないよう、研究対象者に番号を付与したうえで、対応表は研究責任者が鍵の掛るキャビネットに保管します（連結可能匿名化）。研究結果はまとめて、学会や出版物として公表することがありますが、その場合でも個人情報が漏れることはありません。プライバシーは守られます。 本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認されています。本研究の趣旨をご理解いただき本研究に参加をお願いします。もし参加を望まれない場合は研究から除外しますので担当医師にお申し出ください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。また、ご質問がある場合も担当医師にお申し出ください。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2021 年 10 月 4 日　京都桂病院　麻酔科　部長　小山　智弘